

事業活動実績報告書

施 設 名	熊野幼稚園
教 育 理 念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成

1 事業名	生きる力を育成するための稲作活動
2 実施期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日

3	取組概要	(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	 
		園内の田んぼで、自分たちの手で田植えを行う。田植えでは、真剣なまなざしでバランスを取りながら、一株一株を大切に植える。ぬかるんだ田んぼの中で植え終えたときの達成感は大い。 年少児は、泥だらけになって取り組む様子をそばで見たり、そっと手を入れて泥の感触を確かめたりする姿が見られる。	
		(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		毎日見ている中で、稲が大きくなっていることに気が付いたり、水中にいる小さな生き物を発見したりしている。観察眼が養われている。図鑑などを活用し、子どもの「知りたい」という気持ちを満たしていく。	

		(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 稲刈り・脱穀・もみすりは、すべて手作業で行う。 ほのかな香りや心地よいリズムを感じながら、自然と歌うような姿も見られた。また、時間はかかるが、子ども同士の会話が生まれ、お米一粒の大切さを実感できた。 このような、主体的な稲作活動を通して、不思議さに気づき、探求する力が育まれた。 
3	取組概要	(取組日) 令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 田植えで泥に触れた経験から、田んぼの土で絵を描く姿が見られた。 乾くと土が落ちてしまうことに気づき、すり鉢で細かく砕いたり、他の土を混ぜたりしながら、落ちにくくする工夫をしていた。この活動が広がり、様々な場所の土を集めて比べる姿が見られた。 

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名	熊野幼稚園				
教 育 理 念	心身ともに健康で基礎体力のある子の育成				

事業の区分(5領域)	幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
	健康	人間関係	環境	◎	言葉
1 事業名	生きる力を育成するための稲作活動				
2 事業概要	田んぼの活動				
3 対象学級(クラス名) 対象人数				全園児	200 名
計画時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 教員の知識・技術だけでは足りないため、代掻き・苗の準備は外部に依頼し共に行う 田おこしから始まり、田植え、稲刈、脱穀、もみすり、その間の世話や管理は教職員が園児と共にいる			
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 代掻きは外部に依頼しているが、事前準備を園で行うことで、子どもにとってより身近な活動となった。その結果、田植えからもみすりまでの過程に興味をもち、主体的に関わろうとする姿が見られた。また、経験を重ねた上の学年の子は、これまでの体験をもとに見通しをもちながら関わる姿が見られた。			
計画時	5 事業のねらい	園内にある田んぼがあり、毎日身近に触れながら観察や新たな発見ができるようにする 農耕儀礼から始まった行事(お正月・お月見・お祭り・お神輿など)の意義を知る 色々な発見の積み重ねから、自然の不思議さに気が付き探求していけるようにする			
	事業後 5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 暑さにより戸外活動が制限される時期でも、身近に田んぼがあることで観察を継続でき、室内での活動へとつなげることができた。また、行事の意義を伝えるだけでなく、しめ縄づくりや神輿づくりなどの体験を通して、田んぼとのつながりを感じられるようになった。さらに、子どもが抱く疑問や気づきを大切に受け止めることで、探求へとつながる姿が見られた。			
計画時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 田植えから稲刈・脱穀・もみすりまでの稲作活動を全て手作業で行う。 おむすびづくりで、一連の稲作活動を締めくくる。 田植えの経験から感じること(泥の感触・不思議さ等)を深める。 田んぼの生き物等に興味を持ち、深める。 稲の成長から、長さの認識を深める。 動画を活用し、能動的な活動となるように促す。			
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点 ●自然に関心をもち、親しみを持って接することで観察眼を育む。			
		(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点 ●季節の変化を感じ、稲の成長や田んぼの生き物について深く知ろうとする。 昨年度は特に稲の長さに着眼点を置いたが、今年度は季節を肌で感じ、その時の稲や田んぼの様子に注目できるように保育者が意識して毎日の遊びの中で声をかけ深めていく。(例:「雨がたくさん降ってるね。でも、稲ちゃんなんだか太っちゃよになってきたね。雨のパワーをもらっているのかな?」等、梅雨の頃に稲が分けつすることを毎日の観察から気がつく)毎日必ず視界に入る田んぼだからこそ、日々様々な視点からの子どもの気づきがある。			

計画時	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 日頃から田んぼを意識して過ごす中で、変化に気づく力が育ってきている。 また、カエルを予測して待つ姿や、トンボの動きを観察する姿など、生き物と関わる様子が多く見られた。さらに、関心は土へも広がり、土で絵を描く活動を通して、よりよく表現しようと試行錯誤する姿が見られた。
	7 環境構成例		●戸外遊びの時に必ず目に入る位置に田んぼがある。 ●毎日見ている中で、大きくなっていることに気が付き自ら大きさを測ってみようとする。興味を示すまでに日数を要する子もいるが、園内に田んぼがあることで、ほぼ全員がその子なりの田んぼへの興味、かかわり方ができる。 ●アメンボ・カエルやちょうちょ、ヤゴやトンボ、バッタなどが生息し、探したり見つけた子が観察したりしている姿を見て、周囲の子もよい影響を受ける。 ●園内の田んぼを、毎日見ていくことで、じっくり見たり班化に気付いたりする力(観察眼)を養う。 ●稲刈・脱穀・もみすりとは、すべて手作業で行う。時間を要するが、子ども同士の会話が生まれ、一定した作業のリズムが歌になって表現されることも期待できる。 ●全てを手作業で行うことを体験し、お米の大切さを体感する。 ●稲の育ちの変化を視覚的にわかるように工夫する。
計画時	事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 日常的に田んぼが視界に入る環境により、変化に気づき、自ら関わろうとする姿が見られた。また、生き物の観察を通して関心が広がり、観察する力が育っている。 園内に田んぼがあることで、どの子にも興味関心が広がり、稲の花が咲く頃には甘い香りに気づく姿も見られた。 さらに、手作業による一連の作業を通して、会話や表現が生まれ、お米の大切さを実感している。
	8 期待される効果 児童の姿		取組を通じて期待される児童の姿や効果等 稲が大きくなる喜びを感じ、観察眼が養われる。 稲の成長を目の当たりにし、田んぼの生き物と触れ合うことで、様々な発見をしたり感じたり考えたりできる。
	事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 稲の成長に喜びを感じながら、日々の変化に気づく姿が見られ、観察する力が育っている。また、風の強い日の音や水量の変化に気づくなど、日頃からよく観察している様子が見られた。 さらに、田んぼの生き物との関わりを通して、様々な発見や気づきが生まれ、考える姿が見られるようになった。
	9 効果検証総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 日常的に田んぼと関わる環境の中で、すべての子どもにも興味関心の広がりが見られた。稲の成長や自然の変化、生き物との関わりを通して、観察する力や気づく力、考える力が育まれている。 また、もみすりなどの手作業や継続的な体験を重ねることで、それらが確かな経験となり、自然の不思議さやお米の大切さを実感し、主体的に関わろうとする姿が見られるようになった。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。